

# 異学年交流を図り、自分の体力に関心をもたせる



## 全校運動集会

### 運動を通じた異学年交流を!

近年、学校では様々な交流活動が盛んに行われています。生活科や総合的な学習の時間、あるいは特別活動などで交流の場面が設定されることが多いようですが、子ども同士が運動や運動遊びを通して、全校でのびのびと交流する場も設定したいものです。子どもたちは本来、群れ集まって体を動かす遊びを好むものです。全校で運動を楽しむ集会を通して、幅広い異学年交流を図るとともに、体育や日常生活で積極的に運動に取り組もうとする意欲を高めることができます。

### ポイント!

ここが



#### 1. ねらいについて

異学年交流を深めるのか、運動体験を広げるのか、自分の体力や運動能力に関心をもたせるのか等々、学校の実態に応じてねらいの重点化を図るとよいでしょう。どのようなねらいを設定するにしても、誰もが体を動かす楽しさを味わえるような集会にすることが大切です。

#### 2. 時期について

新学年の生活も落ち着いてきた5～6月頃に行くと、新1年生やクラス替え後の新しい友達との交流が図れます。また、学年末に行くと、6年生やクラスの友達とのお別れ行事としても位置付けることができます。ねらいに応じて実施の時期を考えるとよいでしょう。

#### 3. 種目について

種目の内容を、体育で行う運動をアレンジしたものにしたり、「伝承遊び」「鬼ごっこ」その他の様々な「運動遊び」にしたり、従来の「体力・運動能力テスト」的なものにしたりすることによって、多様なねらいに応じた多様な楽しみ方のできる集会をつくることができます。事前に子どもの希望を調査するなどして種目の選定を行い、バラエティに富んだ楽しい種目を用意しましょう。毎年、同じ種目で行って個々の記録を残すようにすれば、学校オリジナルの体力・運動能力テストとして扱うこともできます。また、校庭の遊具を利用するなど、常に場の設定ができる種目を行うことにより、運動の日常化を図ることもできます。

#### 4. やり方について

児童数、施設、設備の状況等、学校の実態に応じて工夫しましょう。参加の仕方や約束ごとなどは、各クラスで事前指導をしっかり行い、混乱のないようにしましょう。

#### 5. 企画立案・係分担などについて

企画立案に際しては、ねらいに応じて、特別活動部と体育部が十分に連携を図ることが必要でしょう。準備、進行、片付けなどの実務を子ども主体で行わせることで集会も盛り上がります。児童会をはじめ、体育、集会などの委員会や6年生に活躍の場をたくさん与えましょう。

〈例〉

- 各コーナーは6年生が分担して運営する。
- 1～5年生は、会場図を兼ねたカードを持ち、各コーナーを自由に回る。
- 全コーナーを回ったら、朝礼台前で終了シールをもらう。
- 2～6年担任と専科は、6年生と一緒に各コーナーを担当する。
- 1年担任は、会場を巡回して児童管理にあたる。

## フレンドスポーツフェスティバル2003

児童会で話し合って集会名を決めるとよい。



丸太から落ちないように一方の足・一方の目で10秒立ってられるか。

丸太バランス

一人3回シュート。距離は学年別。

フリースロー

一人3回投げる。ボールの大きさは学年別。何m届くか。

ドッジボール投げ

全コーナーを回ったら終了シールをもらう。

朝礼台

タイムを計測。

30m走

タイムを計測。ハードル3台。高さは学年別。

30mハードル走



大なわ

PK戦

かぶりなわ・むかえなわ 十字まわし(2本)から1種目。入って、5回跳んで、出る。

キーパーに捕られないようにシュートする。1人3回で距離は学年別。

PK戦



的あて

ドッジボールをカラーコーンに当てる。1人3回で距離は学年別。

パターでゴルフボールを打ってカラーコーンに当てる。1人3回で距離は学年別。

パターゴルフ

何秒ぶら下がってられるか。

登り棒

1人2回跳び距離を測る。

立ち幅跳び

PK戦

鉄棒

逆上がりか前転を10秒で何回できるか。

### 注意!

- カラーコーンのところで順番を待ちましょう。
- 全コーナー終了シールをもらった後、2回目のチャレンジをしましょう。
- 6年生の指示をよく聞きましょう。